

ぎょうだ
歴史系譜 199
行田の歴史再発見 2

行田のあけぼの〜旧石器・縄文時代の行田〜

私たちが生活している行田市には、いつごろから人々が暮らしていたのでしょうか。

行田市内で人々が生活を始めたのは、今から約1万6千年前の旧石器時代からでした。

長野中学校の校庭（馬場裏遺跡）から、そのころの石器が見つかっています。この時代にはまだ土器はなく、石器を使って狩りをして生活をしていました。当時の行田市周辺地域は、今と違って起伏の激しい地形で、馬場裏遺跡のある場所は、大宮台地先端の細長い台地の上でした（現在もこの付近が行田市内で最も標高の高い場所です）。恐らく当時の人々は、台地の上を転々と移動しながら狩りをしていたようです。

縄文時代になると、土器が使われるようになり、人々は食べ物を煮て食べるようになります。約7千年前の縄文時代前期



陣場遺跡から出土した注口土器

ごろには馬場裏遺跡に竪穴住居が築かれて、集落が営まれ始めます。この集落は間もなく地域の拠点集落へと発展し、その後消長を繰り返しました。

約5千500年から3千300年前ごろの縄文時代中期から後期になると佐間地区（諏訪山遺跡）、埼玉地区（船原・内郷通遺跡、下埼玉通遺跡、陣場遺跡など）の台地上にも集落が営まれますが、いずれも小規模で、広い台地上に大規模集落が営まれる県内のほかの地域と比べると、この時代の行田地域は人口がやや少なかったと思われるかもしれません。それでも渡柳の陣場遺跡からは、急須に似た形をした注口土器ちゅうこうどくわなど貴重な縄文土器が出土しています。

縄文時代後期の後半になると、下忍地区の沖積地（高畑遺跡）に集落が営まれますが、このころから集落数は減少し、やがて市内に集落がほとんどなくなって縄文時代の終わりを迎えます。（文化財保護課 中島洋二）

キラリ元気

No.91

柿のサラダ

色鮮やか さっぱりサラダ

柿の実が鮮やかに色づいてきました。柿を食べると風邪をひきにくくなるといいますが、これは柿に豊富に含まれるビタミンCとビタミンAが、体の抵抗力や免疫機能を高めるからです。大きめの柿を1つ食べるだけで、1日に必要とするビタミンC量を十分取ることができます。

材料（2人分）

柿…1個 かぶ…中1個
 ドレッシング【柿…1/4個 酢・レモン汁…各大さじ1/2 塩…小さじ1/3
 サラダ油…大さじ1 こしょう…少々】

作り方

- ①柿は4～5mmの厚さに切り、薄い塩水にくぐらせ水気をふき取る。
- ②かぶは皮をむき、縦半分切ってから、柿と同じように切る。塩を軽く振り、しんなりさせる。
- ③柿1/4個は皮をむいてすりおろし、ドレッシングの材料と混ぜ合わせる。
- ④②の水分を絞り、①と交互に並べ、③をかける。



栄養成分（1人分）

エネルギー 157kcal たんぱく質 1.0g 脂質 6.9g 炭水化物 24.7g 食塩相当量 1.0g ビタミンC 102mg 食物繊維 3.1g

（社）埼玉県栄養士会 行田・羽生の会

今月の表紙

9月12日、第38回行田市消防団消防操法大会が消防本部で行われました。自動車ポンプの部と小型ポンプの部に分かれ、消防用機械器具操作の迅速さと正確さを競い合った選手たち。日ごろの訓練の成果を発揮していました。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。

■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。

ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています